

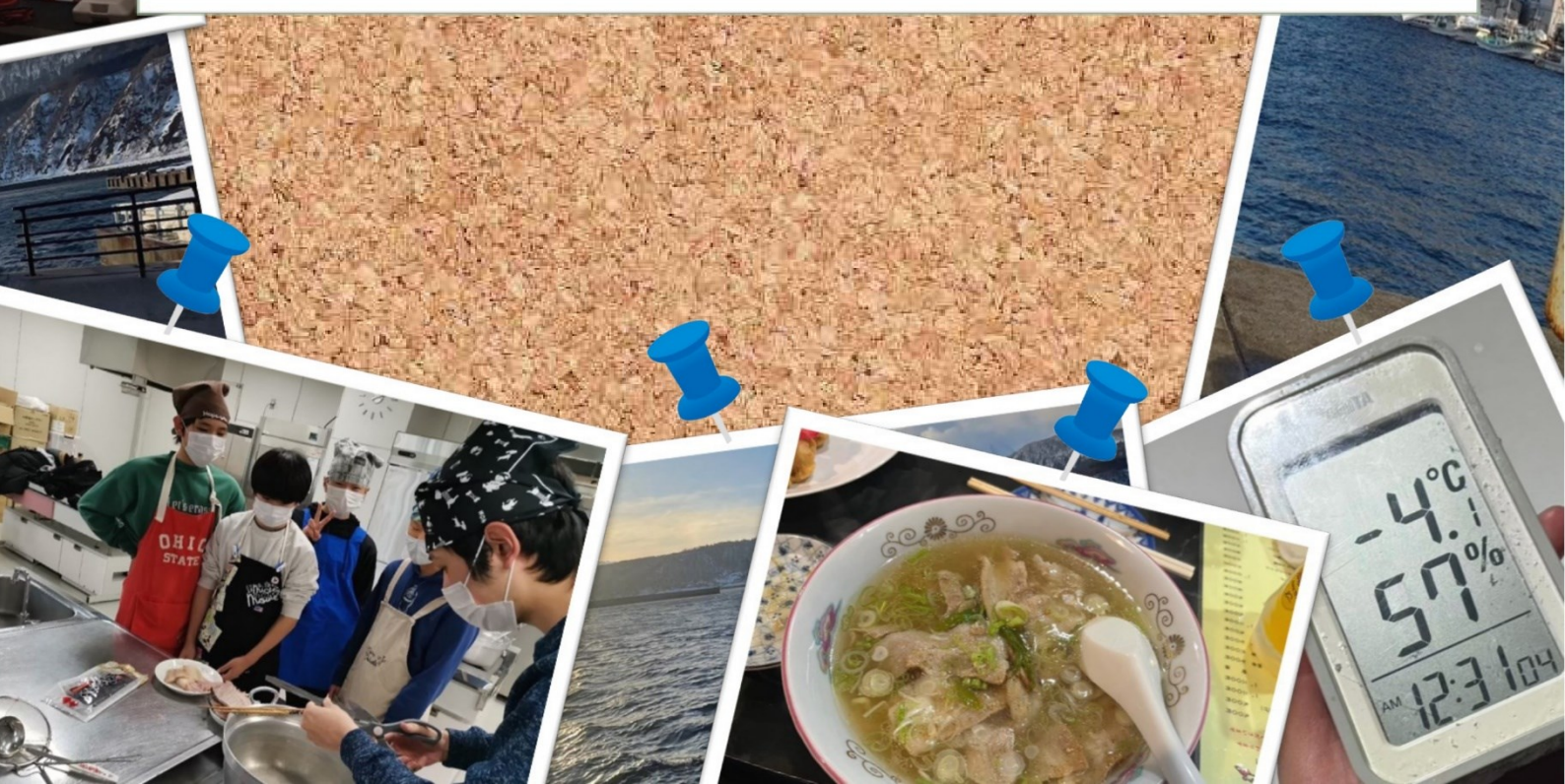
2024年9月 指定50周年
ようこそ 利尻礼文サロベツ国立公園
「利尻島」へ



2024*

島活プロジェクト

～島活プロジェクト初の冬季訪問記録～



= 目次 =

- メンバー紹介（2 頁）
- はじめに：島活プロジェクトの概要（3 頁）
- 報告内容 1：冬季の飛行機・フェリーを用いた移動について（4 頁）
- 表 1：2023 年度下半期の利尻・礼文航路の欠航日について（5 頁）
- 報告内容 2：冬季の利尻島の状況について（6 頁）
- 報告内容 3：冬季の利尻島の交通事情について（7 頁）
- 報告内容 4：利尻島での食術支援について（8 頁）
- 報告内容 5：冬季の利尻島に訪問することの重要性等（9 頁）
- 利尻島訪問を終えての感想（10-12 頁）

※1：[目次の各項目は選択していただくと該当頁に移動します。](#)

→PC の場合…目次の項目（例：メンバー紹介 2 頁）をクリック、もしくは「Ctrl を押した状態でクリック」していただくと移動します。

→スマートフォンの場合…目次の項目（例：メンバー紹介 2 頁）をタップしていただくと移動します。

※機種等によっては移動できない場合があります。

※2：[本報告書は 2024 年 2 月の利尻島訪問の報告書になります。他の年月で必ずしも本報告書同じ状況になるとは限らないことにご留意ください。](#)

本報告書の編集者：他田直生（島活プロジェクトリーダー）

島活プロジェクトの連絡先：shimakatsu2023@gmail.com

<メンバー紹介>

名前 他田 直生

名前 辻 捷馬

名前 山内 理菜



= 2024 年 2 月 利尻島訪問の行動表 (1 時間単位) =

日時	2月16日	2月17日	2月18日	2月19日	2月20日
4～5時					
5～6時					
6～7時	朝食			朝食	朝食
7～8時		朝食	朝食		
8～9時	京都駅～関西空港駅 (特急)				
9～10時			利尻町立博物館	釧路フェリーターミナル～稚内フェリーターミナル (フェリー) ※3	
10～11時		新千歳空港～稚内空港 (飛行機)			
11～12時		昼食		昼食	稚内空港～新千歳空港 (飛行機)
12～13時	関西空港～新千歳空港 (飛行機) ※1	稚内フェリーターミナル～釧路フェリーターミナル (フェリー)	花園教会水族館とのオンライン中継 & 食術支援		
13～14時				宗谷岬周辺散策	昼食 & 新千歳空港散策
14～15時					
15～16時	MINN千歳到着 (宿泊施設) ※2			THE・STAY・WAKKANAI到着 (宿泊施設)	
16～17時		ゲストハウス1721到着 (宿泊施設)			新千歳空港～関西空港 (飛行機)
17～18時	夕食	食術支援準備		夕食	
18～19時	気温等観測		夕食 (味処なざき)		
19～20時					
20～21時		夕食	夕食 (Tecchi)		関西空港駅～京都駅 (特急)
21～22時					
22～23時					
23～24時					
備考	※1 降雪の影響で新千歳空港への到着が1時間20分遅れることとなりました。 ※2 事前に予約していた稚内行きの飛行機が欠航となったため臨時日程として予定していたMINN千歳に宿泊することになりました。		宿泊場所は引き続きゲストハウス1721です。	※3通常2便予定されているフェリー運航のうち、海上時化の影響で午後からのフェリーが欠航となってしまったため午前の便で帰ることになりました。	

※写真の位置情報をもとに実際の行動表を作成しました。短時間の移動および休憩時間は記載を除きます。

はじめに：島活プロジェクトの概要

利尻・京都島活プロジェクト（以下、「島活プロジェクト」）は、「多くの子どもたちが利尻島の雄大な自然に触れることで環境問題に対する意識を育むと同時に、利尻島を第二の故郷に感じてほしい」という想いのもと 2021 年に立ち上げられた学生主導のプロジェクトです。そして当時「NPO 法人 NCM ジャパン」¹が運営している花園教会水族館と花園ジョイフル子ども会の活動のうち花園ジョイフル子ども会の活動に関わっていた市倉信吾氏が島活プロジェクトの発起人となります。

2021 年 8 月に市倉氏が代表のもと子ども 2 名を引率のうえで利尻島を初訪問しました。そして現地で両氏をしている小坂善一氏やそのご家族との交流を果たし、島の一次産業や環境問題について学びました。続く 2022 年 8 月には星太郎氏が代表のもと子ども 3 名引率の上で利尻島を再訪し、現地の個人塾「あそびどころ」²にて利尻島の子どもたちとも交流を深めました。

2022 年 8 月以降は、他田直生が代表のもと利尻島との相互交流の実現および島活プロジェクトの更なる発展に向けた土台作りを目標として、従来とは異なる冬季での利尻島訪問の実施や定期的なオンライン交流会などを実施してきました。また島活プロジェクトは人見早知子右京区長や門川大作京都市長にも認知されているプロジェクトになります。

●島活プロジェクトの活動報告について

- ・2022 年 2 月：利尻島の漁師・小坂善一氏とともに人見早知子右京区長と会合
- ・2022 年 10 月：花園ジョイフル子ども会主催の研修会での報告
- ・2023 年 2 月：門川大作京都市長を交えた報告の実施（おむすびミーティング）
- ・2023 年 3 月：京都市右京区の区民会議に参加
- ・2023 年 8 月：利尻島の私塾あそびどころの経営者・廣瀬諒氏とともに花園教会水族館主催のおむすび食堂での報告

●オンライン交流会の様子



●門川大作京都市長を交えた報告会



¹ 特定非営利活動法人 NCM ジャパン「NCM ジャパンについて」（2024 年 3 月 31 日最終閲覧）

<<https://www.ncmjapan.org/>>

² 利尻あそびどころ「あそびどころとは」（2024 年 3 月 31 日最終閲覧）

<<https://asobidokoro.localinfo.jp/>>

● 報告内容1：冬季の飛行機・フェリーを用いた移動について

今回の利尻島訪問の目標の一つとしてフェリーを用いて利尻島に行く場合のルート調査を行うことが掲げられていました。また島活プロジェクトにとってフェリーを用いたルートの開拓はレンタカー等の車での移動範囲の拡大にも繋がるため重要な目標でした。そのため今回は例年の利尻島訪問とは異なり稚内まで飛行機で行き、稚内から利尻島の鵜泊までフェリーで行くこととなりました。

2024年の冬は暖冬と報道されていたことからいえるように例年と比べて暖かい年でした。そのことに加えて航空会社や「ハートランドフェリー」³が出している例年の運航データを拝見する限り2024年2月の飛行機及びフェリーの欠航は比較的少ない方であったと考えられます。

しかし私たちが利尻島訪問に動き出した2月16日には降雪の影響で稚内行きの飛行機が欠航したり、新千歳行きの飛行機が大幅に遅延するなどの影響が出ました。また到着の遅延に関しては予定の範疇だったということもあり、もしもその日の稚内行きの飛行機が運航したとすれば、16日のうちに稚内に予定通り到着できる予定でした。しかし実際は稚内行きの飛行機が欠航してしまい、やむを得ず臨時日程の方で動くこととなり新千歳空港から近い宿泊施設に宿泊することとなりました。

またフェリーに関しても例年は全便欠航や一部欠航が多い印象を受けていましたが、2024年の2月は欠航が少なく行きも帰りも計画通り乗船することが出来ました。しかし2023年の11月から2024年の1月は毎月フェリーが13日欠航していたため、実際冬季は1か月のうち約4割が欠航していることとなります（※5頁：表1参照）。そのため冬季でのフェリー移動は欠航に備えた臨時日程を事前に組むことが大切になると考えられます。



以上のことから冬季の飛行機やフェリー移動は欠航を見越した日程を事前に組むことが大切になると考えました。しかし一方で欠航などを見越して万全の計画をすれば冬季に飛行機やフェリーで利尻島に行くことは可能であると感じました。また訪問する日の天候によっては全く欠航することがなく飛行機やフェリーで利尻島に行くことが出来ます。

※この写真は欠航した飛行機とは関係ありません



³ ハートランドフェリー「ハートランドフェリー | 利尻島・礼文島、奥尻島を結ぶフェリー航路」
(2024年3月31日最終閲覧)<<http://www.heartlandferry.jp/>>

●表1：2023 年度下半期の利尻・礼文航路の欠航日について

10 月（欠航：計 2 日）

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11 月（欠航：計 13 日）

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12 月（欠航：計 13 日）

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1 月（欠航：計 13 日）

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2 月（欠航：計 4 日）

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3 月（欠航：計 3 日）

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

赤丸：全便欠航

緑丸：一部欠航

紫丸：利尻島と礼文島間のみ欠航（稚内～利尻島と稚内～礼文島間は運行）

コメ印：欠航理由が海上時化以外の場合に記載。

（コメ印が無い場合の欠航理由は全て海上時化による欠航です。）

●海上時化以外の欠航理由について

※ 1 (12/21)：大雪に伴い稚内フェリーターミナルが封鎖された影響で全便欠航

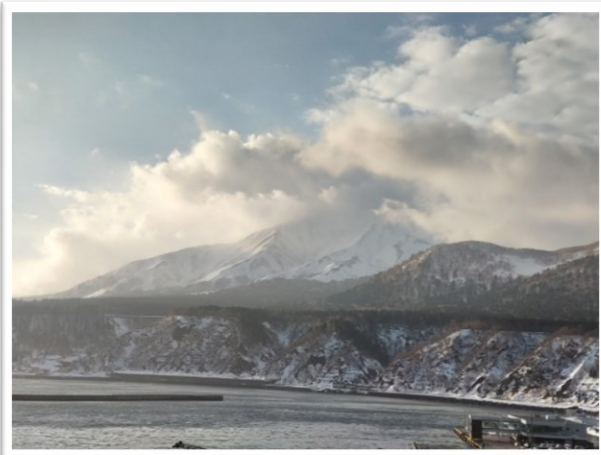
※ 2 (1/15)：暴風雪警報に伴い稚内フェリーターミナルが封鎖された影響で全便欠航

※ 3 (1/22)：流水等の影響で利尻島と礼文島間のみ欠航

※ 4 (1/24,1/25)：暴風雪警報に伴い連日稚内フェリーターミナルが封鎖された影響で全便欠航

● 報告内容2：冬季の利尻島の状況について

まず事前に廣瀬諒氏（「利尻島の私塾：利尻あそびどころ」の経営者）に聞いていたことになりませんが、積雪などの影響で多くのお店が休業していたり予定より早くお店を閉める等していた印象があります。そのため夏季に比べると開店しているお店は少ないと考えられます。また利尻山には冬季も登山することが出来ますが、「北海道宗谷総合振興局 地域創生部 地域政策課」⁴による



と気温がマイナス30度を下回ることがあるため、万全の装備および計画を立てて登山する必要性があると考えられます。しかし現地の子どもの話によると利尻島の小学校では利尻山の付近で冬季にスキーを実施したり、スキーの少年団が存在していると話していたこともあり、しっかりとした計画を立てて装備をすれば冬の利尻アクティビティとしてスキーもすることができます。

また同じく廣瀬氏が事前にお話ししていたことになりませんが、雪の吹き溜まりがかなり出来ていると感じました。実際に除雪がされていない場所に限りませんが極端に積雪している場所がある一方で全く積雪していない場所も見受けられました。また私たちが訪問した時は積雪が一晩で道路が見えるほどに溶けてしまい翌朝には景色が一変してしまいました。また「ゲストハウス1721」⁵（利尻島の宿泊施設兼居酒屋）の店員の方に利尻島に大寒波が来た時の映像を見せてもらい話を聞いた際には「吹き溜まりの影響で場合によっては2階の窓から家を出なければならない時がある」というようなことを仰っていました。

また雪に関しては先述の吹き溜まりに関することも特徴として挙げられますが、他には利尻島に限らず北海道の雪は本州の雪と比較してサラサラである傾向があると感じました。このことに関して廣瀬氏や現地のタクシー運転手は本州の雪と比較して水分が少ないことが挙げられるのではないかと仰っていました。



⁴ 北海道宗谷総合振興局「地域政策課 - 宗谷総合振興局」

(2024年3月31日最終閲覧)<<https://www.souya.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/>>

⁵ ゲストハウス 1721「ゲストハウス 1721 | 利尻島 | りしぷら RISHIRI PLUS」

(2024年3月31日最終閲覧)<<https://www.rishiri-plus.jp/shima-htsp/guesthouse-1721/>>

● 報告内容 3：冬季の利尻島の交通事情について

報告内容 2 において冬季の利尻島の状況を大まかではありますがまとめました。そして報告内容 3 においては 2024 年の冬季利尻島訪問で得られた情報の中で今後の島活プロジェクトにとって重要になるであろう交通の便に関する内容を別途まとめさせていただきます。

結論としては私たちが事前に想像していた以上に利尻島内で積雪による交通網への影響がなく交通の便が良かったと感じました。利尻島に行く前に私たちは利尻島では雪の吹き溜まりがしやすいことや 2 月でもホワイトアウトが起こりやすいと聞いていました。そしてそれに伴い利尻島を走っているバスやタクシーなどの交通機関が麻痺してしまうことも少なからず想定していました。しかし実際には利尻島の中心的な道である道道 108 号線を始めとして毎朝除雪が



されているだけでなく、雪が多く降った際には朝に加えて夜も除雪作業が行われているため多少の積雪があってもバスやタクシーが通常通り運行できるように整備されていました。しかし積雪時に運行しているタクシーは昼頃でも 2 割増しの料金設定となっていました。また除雪がされているとしても車での移動はスリップなどの危険性もあるため注意して運転する必要があります。

また交通網の関連として利尻島外からの食料や生活用品の仕入れとして飛行機やフェリーが主に用いられると聞きました。そして冬季の利尻島は夏季よりも飛行機やフェリーの欠航が比較的多いですが、セイコーマート（コンビニエンスストア）を始めとして食料の販売が少なくなることはあるが途絶えることは滅多にないと聞きしました。しかし大寒波が来ると事前に判明した場合は食料を早め買って溜めておくこともあると聞きしました。



利尻島のセイコーマートは冬季の夜でも品物が充実している印象を受けました。

● 報告内容 4：利尻島での食術支援について

利尻島の子どもたちに利尻昆布を用いたタラの煮付けの調理を食術支援として実施してきました。食術支援として伝えてきたタラの煮付けの作り方は京都市で保護司をしている岡冬樹氏から教えていただいたタイの姿煮の作り方を応用したものです。また岡氏に教えていただいたタイの姿煮の作り方は白身魚であれば応用できるものであったり、利尻島ではタラの方がタイよりも



比較的入手しやすいとお聞きしたこともあり、当日はタラの煮付けを作成することとなりました。しかし岡氏から教えていただいた調理方法は利尻昆布を用いた京料理ならではの調理方法ということもあり京都市と利尻島が融合した料理であったといえます。そのことを食術支援当日に子どもたちに説明したところ子どもたちは非常に興味を持って食術支援に参加してくれた印象があります。また食中毒に関する内容が報道機関を通じて度々報道されることもあり、食術支援に参加する皆が食中毒になることを避けるために事前洗浄やしっかりした加熱を徹底したり、マスク・エプロン・三角巾の着用などを徹底して食術支援を実施しました。そして後に廣瀬氏から子どもたちにも好評であったとのことをお話を聞き大変嬉しく感じました。また食術支援後に利尻島の子どもたちから京都市に行ってみたいというお話を自発的に聞いたことも大変嬉しく思いました。



2024 年冬季の利尻島訪問では廣瀬氏に大変お世話になったと感じています。廣瀬氏には食術支援の準備および実施だけでなく、利尻島内での送迎や情) 共有など様々な事においてご協力を頂きました。そのことを受けて廣瀬氏には心から感謝するとともに利尻島の人々の暖かさを感じました。



●報告内容5：冬季の利尻島に訪問することの重要性等

この項では夏季と冬季の2つの季節に利尻島を訪問したうえで感じた「冬季の利尻島に訪問することの重要性等」についてまとめさせていただきます。私は2022年8月と2024年2月に利尻島を訪問しました。そしてこれら2度の利尻島訪問を経て私は「①冬季であるからこそ気づけたことがあった」と感じたと同時に「②今後島活プロジェクトが更なる発展を遂げていくためには冬季の利尻島を知っておくことが大切である」と改めて感じました。

まずは①についてですが、報告内容2や報告内容3においてまとめた内容から私は本来であれば冬季の利尻島は雪による影響が本州に比べて出やすい環境であるが冬季の積雪に対して万全の対策をしているため実際の影響が少ないのだと考えました。更に大寒波前などには食料を事前に貯蓄するなど、個々でしっかりとした対策を取っているということもお聞きしました。そして現地の方によるとこのような対策を取れる背景には、「利尻島において食料を事前に貯蓄することは積雪や吹雪により外に出られない場合」や「長期間のフェリーや飛行機の欠航に伴い食料が利尻島内に運ばれてこない場合」を想定していることが挙げられるようです。この点から島で生活するうえでは本州で生活する以上に貯蓄をしておくことが重要になると考えられます。また他には飛行機やフェリー、そしてバスが運行しない場合の移動手段なども臨機応変に考える必要があるとお聞きしました。これらのことは従来夏季利尻島訪問では気づけなかった事であり、利尻島以外の島での生活にも活かすことが出来るのではないかと考えられます。

次に②についてですが、来年度以降の島活プロジェクトの活動に繋げるという観点でも冬季訪問は重要な意義を有していました。今後の島活プロジェクトがどのように発展していくとしても夏季以外の利尻島の状況を把握しておくことにより新たな活動を生み出せる可能性が出てきました。例えば今回の冬季訪問を経て利尻島アクティビティの一環としてスキーの実施や利尻島で生態調査の実施などに今後繋がれるようになったと言えます。特に利尻島は自然が豊かな地域であることや島活プロジェクトが花園教会水族館と大きくかかわっていることを踏まえると生物に関連した新たな活動に繋げることもできると考えています。そのため島活プロジェクトとしては私が掲げた更なる発展に向けた土台作りをするために重要な意義を有していたと考えています。

●2024年2月の北海道の実際の気温



●現地の方から頂いた利尻昆布



● 利尻島訪問を終えての感想

○他田直生：2024 年・冬の利尻島訪問の感想

今回の利尻島訪問は例年の訪問と比較すると異なる点が非常に多く事前準備に多くの時間を割きました。

特にフェリーを用いた移動手段の確保など様々な目標を掲げていたこともあり、例年では深く検討することがなかったフェリーや飛行機の欠航・欠便などを加味して、様々な臨時日程を考えておく必要がありました。実際に昨年（2023 年）の 8 月ごろから毎日フェリーの欠航連絡などを受け取るようにしていましたが冬季になるにつれて欠航・欠便する日が多くなったという印象を受けています。

それ故に今回の訪問に際して 5 パターン（細かく分けると 7 パターン）の臨時日程を事前に設定しました。私はこの点が非常に大変であったと感じています。一方で今回の利尻島訪問は子ども会の子どもたちを連れて行かなかったという大きな特徴があります。この点に関しては今年度花園ジョイフル子ども会に所属している子どもの中で、未だに利尻島に行けていなかった子ども達が受験を控えていたり、冬の利尻島で考えられる危険性が未知数であった点など様々なことが挙げられます。

また今年度の島活プロジェクトはオンライン交流会という花園教会水族館とあそびどころを結ぶ企画を実施してきたこともあり、例年以上に廣瀬氏と密接な関係を結ぶことが出来ていました。そのため個人的に廣瀬氏には様々な連絡を取り、定期的に利尻島の現状を聞いたりなどしていました。

このような状況下で今回の利尻島訪問に臨むことになりました。そして利尻島は京都市と比較するとやはり寒い地域であり、2 月後半でも気温が氷点下となるような地域でした。そして寒さや積雪の影響で休業しているお店や本来の閉店時間より早く閉めるお店が多いという印象を受けました。また日によっては風や海上時化が想像していた以上に凄まじく風で倒れそうになった時もありました。雪に関しても吹き溜まりがかなり出来ており、想像以上に積雪場所に偏りがあると感じました。

しかしこのような寒い気温が続く地域でありながらも、現地の方々は本当に暖かかったと感じています。多くの人が気軽かつ笑顔で接してきて暖かく私たちを迎え入れてくれた印象を受けました。このような人の中にはもちろん廣瀬氏やあそびどころの子ども達が含まれますが、他にゲストハウス 1721 の店員さんやタクシー運転手の方、そしてセイコーマートの店員さんなども含まれます。本当に私たちと接してくれた皆が笑顔で接してくれました。話してくれた内容は様々ありますが、利尻島の交通事情やオススメの商品などを話してくれたり、中には海外渡航していた時の話を聞かせてくれたりした人も居ました。

一方で私も様々なことを話してきましたが私はこのような話を聞くことは本当に楽しかったと感じています。

私自身このような暖かさを忘れてはならないと思いました。そして今回の利尻島訪問を通して、暖かく出迎えてくれると感じたからこそ、たとえ遠くてもまた連絡して行きたいと思うようになりました。そのため私自身今回の利尻島訪問は非常に思い出深いものとなりました。一方で今回は誰もケガすることがなく訪問を終えることが出来たうえに事前に立てていた目標を達成することが出来ました。

そのため結果的に島活プロジェクトを更に発展させていくための布石とすることが出来たのではないかと考えています。

私自身大学を卒業して就職することとなったため来年度以降は花園教会水族館や花園ジョイフル子ども会のボランティア活動、そして島活プロジェクトも引き継いだうえで活動から離れることになります。そのため来年度以降の島活プロジェクトがどのように運ばれていくのか今の私には未知数です。けれども現在花園ジョイフル子ども会の子ども達の多くは利尻島に行きたいと思っていることが確かです。

そのため今回の利尻島訪問が来年度以降何らかの布石となった、そして何よりも今後子どもたちの「利尻島に行きたいという想い」が叶えられるようなプロジェクトになっていければ、島活プロジェクトのリーダーを務めてきた身として大変嬉しく思います。

=参考=

利尻あそびどころ：<https://asobidokoro.localinfo.jp/>

ゲストハウス 1721：<https://www.rishiri-plus.jp/shima-htsp/guesthouse-1721/>

○辻捷馬：2024 冬島活プロジェクト島訪問の簡単な感想

今回の企画において、たくさんの時間と会議をこなしたことで無事予定通りに進んだように思います。

何パターンもの日程を組み、企画したことで、あらゆるトラブルに対して冷静かつ楽しみながらこなせたように思っています。

前回の訪問では予定通りに進むことが難しく、ある意味失敗で終わったような雰囲気がありました。

その反省が今回強く生きたように感じます。

他田さんがほとんど書いているのであまり書きませんが、ただの大学生が企画し、現地に行ってイベントを回して次回に繋げるような活動はしている方はあまりいないように感じます。

自分は 3 回利尻プロジェクトに関わって来ましたが、最後はやっぱりいい経験値を得れたように感じています。

他田さんの展望とは異なりますが、今後参加する子どもの将来に良い世界観を与えられる。大学生の頑張ってみる機会を今後も生み出していけるプロジェクトになればと思います。

○山内理菜：2024 年冬 利尻島訪問の感想

他田さんと辻さんも書かれていますが、沢山会議を重ねて、欠航やトラブルの場合の対策などもしっかり考えたからこそ、大きな失敗無く無事に利尻島訪問と食術支援を行うことができたのだと感じます。

また私にとっては初めての利尻島訪問でしたが、廣瀬さんをはじめ沢山の方から島の話を知ったり、博物館に行ったりして、利尻島について知れたことが良い経験になりました。このプロジェクトに参加していなければ利尻島はただの遠い土地でしたが、実際に調べて、訪問して、親しみのある土地に感じています。

夏でも冬でも、今度は子供たちも一緒に利尻島訪問をしてみたいと同時に、ボランティアの経験値も得られるようなプロジェクトにしていきたいです。